

第511回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和2年7月8日(水) 午前11:00より
2. 開催場所 ホテル信濃路 3階 信濃
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 7名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
委員長 林 新一郎
副委員長 渡辺 重久
委員 加藤 恵美子
委員 笹本 正治
委員 佐藤 裕一
委員 瀧川 浩(欠席:リポート提出)
委員 武重 正史
委員 南澤 光弥
○放送事業者側出席者名
外山 衆司 (代表取締役社長)
飯塚 憲彦 (取締役 編成・業務推進・放送番組審議会担当)
春原 晴久 (報道制作局長)
浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長
兼放送番組審議会事務局長)
北沢 輝久 (編成部長 兼視聴者室長)
4. 議題
 - (1) 番組審議
『長野放送開局50周年記念特別番組
究極の浪の彼方へ ～画狂老人・北斎のメッセージ～』
令和2年3月27日(金)夜7時00分～7時57分放送
 - (2) 視聴者対応報告(令和2年5,6月分)

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・映像の中に吸い込まれるように見た。記念番組にふさわしい作品だった。
- ・グラフィックスが良く工夫されて浪の構図の解説がわかりやすく、興味深かった。
- ・初めて見て面白かったのは、「日新徐魔」の独特の線のかすれ、線の面白さ。
- ・諏訪湖の湖面を取り上げて背景の山並みの青をきれいにカメラで映していた。
- ・北斎の文章で、現代語訳のナレーションも丁寧にやってたし、文字化して分かりやすい工夫が随所に出ていた。
- ・北斎は常人では考えられない年齢からすごい人だった、学びたいという思いに改めてさせていただいた。
- ・いろいろな言葉が出てきて、北斎の言葉に元気をもらえたと思う。
- ・70歳でもまだヒョッコでやっと80、90になってちゃんとした絵が描けるといところが勇気をもらえるような感動をした。
- ・重厚なナレーションで番組に厚みが増したのではないかと印象を持った。
- ・幼い頃から好きな事にこだわってそれを天職として生涯現役で大往生できる人生は格好いいと思った。
- ・究極の絵師だけでは浮世絵はできない。版元がいて彫り師がいて摺り師がいてそうして絵ができるというところを何かの番組としてできないか。
- ・1時間で北斎の人生そのものというのを伝えて、啓蒙的な大きな大河ドラマに仕上がったのではないかとあって楽しく見た。
- ・小布施町民や観光客の視点が加われば、番組に厚みが増した。
- ・非常に良く出来ているという一方で、テレビ局は、もう一方の多様な見方はでき

ないのか。

- ・全国の人が見る番組というよりは、地元の人たちが見ていてなるほどと、こういう財産があってこういう歴史があったんだというのが分かるように作っても良かったのではないか。
- ・これで終わりではなくて、60周年までずっと北斎の番組をやったらどうか。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和2年5、6月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・視聴者対応報告資料（令和2年5、6月分）
- ・モニターレポート

『長野放送開局50周年記念特別番組

究極の浪の彼方へ ～画狂老人・北斎のメッセージ～ 』

（令和2年3月27日放送分）

- ・第510回番組審議会（6月）議事録
- ・民間放送（第2157、2158号）
- ・BPO報告（No. 213、214号）
- ・BPO放送倫理検証委員会決定 第36号
- ・タイムテーブル

以上